

業界 information

株式会社 ハイテム

賛助会員

ハイテムは、1972年創業以来一貫してレイヤー農場の自動化設備「エッグファームオートメーション」(以下EFA)に取り組んでいます。

社会必須の健康食品タマゴ需要は30年先も健在で、電子部品産業等の投資環境とは違って、EFA は20～30年働き続けます。

この間の破卵率の差、冬期舎内温度とネズミフリーによる飼料要求率の差、糞乾電気代他の差の累計は、EFA 投資額を上回る可能性があり、自動化養鶏によるこの差の累計を「養鶏第2の利益」と呼び、ハイテムは「養鶏第2の利益」をタタキ出すEFA作りに、研究・開発、製造図、品質管理/日本本社、製造/自社天津工場の体制で努力を続けています。

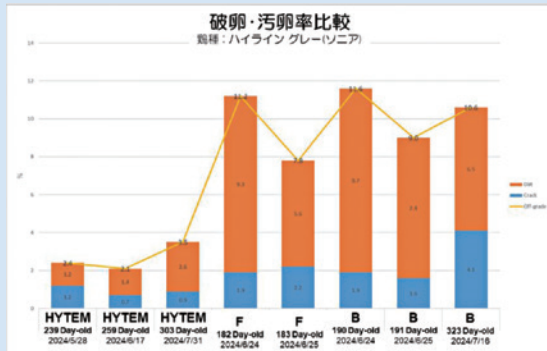
市場は、世界人口6割のアジアに焦点を合わせ、本社、工場のある日本と中国は直売、韓国、台湾、タイ、バングラデシュ、サウジアラビア他アジア諸国は各国総代理店方式でEFA のリーダーを目指しています。

ここでは自動集卵による破卵率極ゼロのヒミツを紹介させていただきます。



複数段のタマゴが同時に排出されない100%段別トラフィックコントロール8段のシステムであれば、1段毎のタマゴが、標準能力2万卵/列の場合、3個以内でバーコン上に水平方向にゆっくり排出されタマゴ同士の強い衝突が発生しません。

表は、ほぼ日令が同じ鶏群のハイテム、B 社、F 社鶏群のGPに於ける破卵、汚卵データです。2%前後の破卵率の差が読み取れます。



1	調査場所	T農場
2	鶏 舎	8段5列 85.8m 標準収容能力 105,600羽/棟
3	調査年	2024 年

汚卵データも示されていますが、数パーセントの差があります。この差は集卵機内でのタマゴの渋滞の差、ケージ内環境から発生していると考えられます。

ハイテムは、農場の大型化進行の中、シンプルな精密養鶏を目指す、ハイテムTIS(トータルインフォメーション システム)にも力を入れています。

30数年磨き続けた飲水量(食下量に比例する)、産卵率、温度他のリアルタイム情報システム「ファームマネジャー」を基幹に、電気設備、用水設備、インラインGP(洗卵水量、ボイラー湯温等)他、農場全体の稼働状況が把握できるシステムを構築し、このシステムに、農場外からモバイル端末でアクセスできる「リモトビュー」、複数農場のデータを管理できる「ハイテムクラウド」を用意しています。

ハイテムは、農場管理が生む「養鶏第3の利益」にも注目し、EFA メンテナンスサポートに努力を続け、レイヤー農場の皆様から信頼される会社に向け、全力を傾けて参ります。

事務局だより



この夏は「危険なほどの高温の日」が日本全体で平均62日に上り、平均気温も平年より3℃以上超えた地点も多かったとか。更に異常な豪雨被害や竜巻被害が相次ぎ、最早、異常気象でなくニューノーマルとも語られ、今後の農水産業や畜産業への影響も懸念されます。

それでも長かった夏も過ぎて、いよいよ

収穫の秋、食欲の秋です。今年も恒例の「畜産グルメパーティ」を開催します。畜産物を食べて元気をいただきましょう。

今年度前半、施設見学会開催や八戸市のイベント参加等では会員各社様には大変ご協力いただきましたこと感謝申し上げます。引き続きご支援ご協力よろしくお願いたします。

今後の予定

11月6日(木)
●東北全日畜講演会(後援)
(八戸プラザホテル)

11月14日(金)
●第7回畜産グルメパーティ
(八戸プラザホテル)

1月31日(土)
●こども料理教室
(八戸ポータルミュージアムはっち)

2月
●講演会及び新年懇親会

業界の枠をこえ、地域に根付いた活動を目指して

Linkage

リンケージ

(一社)青森県畜産・飼料コンビナート振興協会 PR情報誌



vol. 17

(2025年10月発行)

< 発行 >

一般社団法人
青森県畜産・飼料コンビナート振興協会
〒039-1164 八戸市下長二丁目2-24
下長第4オフィス2階7号室
TEL:0178-51-8868 FAX:0178-51-8876
WEB:https://linkage-aomori.jp/

< 編集 >

総務委員会

未来に、まっすぐ。食卓に、まっすぐ。

プライフーズ株式会社 代表取締役社長 本吉 陽一

この度、プライフーズ株式会社代表取締役に就任いたしました本吉陽一です。1993年に三井物産株式会社に入社し、穀物・飼料原料(トウモロコシ、マイロ、大豆粕、動物蛋白等)の仕事からキャリアをスタートし、これが八戸との最初の接点となりました。2005年には八戸に転勤、プライフーズ株式会社の前身である第一プロイラー株式会社に勤務し、2006年には長女が八戸で生まれましたので、八戸は我が家族にとって大変思い出深い土地です。

2012年から米国・ワシントン州にある三井物産子会社で米国産穀物の集荷・輸出を行うユナイテッド・グレイン社やブラジル・サンパウロにあった南米産穀物の集荷・輸出を行うマルチグレイン社に勤務し、日本向け穀物本船の積み出しを行い、八戸を始めとする日本の飼料コンビナートへ供給するという仕事に携わり、約12年間の海外駐在を経て昨年6月に日本に帰国しました。即ち入社以来、役割を変えながらも八戸のグレーンターミナル及び飼料コンビナートにお世話になって参り、その関係は既に30年を超えております。

さて弊社は1965年、長谷川専之助初代社長と第一農産株式会社の社員で、後に二代目社長となる圓子和夫が共同出資で株式会社第一食肉センターを設立したところから始まりました。以降、着実に事業を拡大し、1993年には創業時から協力関係にあった三井物産へ経営権を委譲しました。

その後2008年に第一プロイラー、一冷、日本ハイポー、ゴードックスという三井物産畜産子会社4社を統合しプライフーズ株式会社を設立して新たな船出をしました。続く2010年にはスターゼン株式会社様、テーブルマーク株式会社様、当時の株式会社みちのく銀行様に第三者割当増資のお引き受けを頂き、現在に至ります。

そして今年2月3日に創立60周年を迎えました。これもひとえに、地域の皆様、関係各社様の長年のご支援の賜物と、心から御礼申し上げます。更に当社は、次の50年、60年の成長を目指し、八戸市南郷にKFC様専用の新工場の建設に今年着工し来年の秋に完工の予定です。

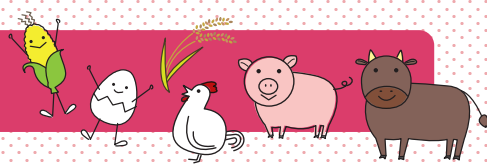
これからも全社一丸となって、安全で美味しい国産鶏肉、豚肉、食鳥処理機械等の提供を通じて業界・地域・社会に貢献して参る所存です。

港を中心とした八戸地域(青森県南・岩手県北)は、宮崎・鹿児島に匹敵する畜産振興地域であります。青森・岩手両県における畜産業は、生産高から見ても経済全体を牽引する重要な役割を担っており、より一層「強い産業」に育成していかなければならないと考えております。課題である担い手、労働者不足、遠方にあるが故の配送問題、飼料を始めとするコスト高騰問題等は全ての畜種に共通しております。畜産業として家畜や家禽を愛情と感謝を持って大事に育てつつ、経済的且つ効率的に営んでいくことが重要と考えます。解決に向けての何かご相談ごと等があれば弊社にお気軽にお声かけください、また当協会を通じて、県や市等の行政を巻き込んだ取り組みも連携して行い、他県に負けない畜産業を作るべく皆様と共に努力して参りたいと思います。

結びとなりますが、当協会皆様様の益々のご発展、ご多幸をお祈り申し上げます。

弊社は、プライフーズスタジアムをホームとするヴァンラーレ八戸も応援しております。

Pick Up NEWS



施設見学会

東北グレーンターミナル(株)

7月9日、会員向け畜産関連施設見学会を開催、会員等30名が配合飼料年間生産量200万トンと全国でもトップクラスの八戸飼料穀物コンビナートの中核企業、東北グレーンターミナル(株)を見学しました。参加者は専用棧橋に接岸中のパナマックス級大型本船に乗船し、輸入トウモロコシの揚げ荷役を間近に見て、そのスケールに圧倒された様子。北東北の畜産を支える飼料供給基地としての飼料穀物コンビナートの役割について理解醸成が図られました。



7月10日、青森県立三本木農業恵拓高等学校と青森県営農大学の生徒学生33名が、プライフーズ(株)細谷工場と細谷プロセスセンター(三沢市)を見学、食鳥の生産処理から鶏肉の製造出荷、鶏肉加工食品の製造までを学習しました。同施設の見学会は一昨年から続く企画で3回目、今回も生徒たちは大規模な工場や新鋭設備の導入により、鶏肉の分野で全国マーケットをリードする有力企業がごく身近に存在することに認識を新たにしました。



プライフーズ(株)



10月7日、三沢市立三沢第三中学校で2年生を対象としてプライフーズ(株)による出前授業が実施されました。元々は処理工場(細谷工場)の見学希望でしたが10月から鳥インフルエンザ防疫強化期間で施設立入り不可の為、学校での出前授業となりました。生徒12名が食鳥の生産処理から製造出荷、加工食品製造までをDVD視聴と担当者の説明で学習、丸鶏の解体実演も行われました。質問タイムは担当者も驚くほどたくさん手が上がり、最後は皆で試食タイムを楽しみました。



鳥インフルエンザ防疫対策研修会

9月4日、「令和7年度高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会」を青森県養鶏協会と共催、発生リスクが高まるシーズンを養鶏農場管理者ら90名が参加、発生防止に向けた取り組み強化への理解を深めました。県担当者からは県が進めているリモートを活用してリアルタイムで鶏舎等の画像を共有することによる飼養衛生管理の確認・指導を行うことのメリットが説明され、画像視聴による実証も行いました。生産者が主導で開催するこの研修会は今年で4回目となりました。



先着20名で3回実施、どの回も盛況でした!



親子で一緒に考えます

サンフェス HACHINOHE 2025



9月28日、八戸のお仕事や美味しいものを再発見するイベントとしてサンフェス HACHINOHEが市内中心街で初開催されました。当協会はYSアリーナ会場で親子が楽しめる畜産クイズ大会を行い、たくさんの家族連れが牛乳、たまご、エサ(飼料)に関するクイズに挑戦しました。地域の産業としての畜産について知っていただくよい機会になりました。